

～天敵を利用したイチゴ栽培～ J A 三島函南イチゴ組合	
団体名	J A 三島函南イチゴ組合（生産者 33 名）
地区	田方郡函南町
作物名	イチゴ
I P M 取り組み面積	5. 7 h a
連絡先	担 当：日吉誠 （住 所）静岡県田方郡函南町大土肥 50 番地 （T E L）0 5 0 - 3 1 6 1 - 1 2 0 1 （F A X）0 5 5 - 9 7 9 - 5 5 7 7
H P	http://mkja-shizuoka.jp/

◇ I P M の概要

生産者の高齢化が進む中、イチゴ栽培において病虫害防除にかかる薬剤散布の労働負担は大きい。農薬の残留問題も騒がれ、化学農薬に依存することも懸念されることから、平成 19 年度から「食の安全・安心確保交付金」を利用し「天敵昆虫を中心とした I P M 総合防除」の普及推進に取り組み始めました。



◇ I P M 導入の経緯

- 平成 18 年 I P M 防除体系の研究に取り組む
- 平成 19 年 国庫交付金事業を利用して生産者 19 名の圃場で実証を行う
- 平成 20 年 組合員の 60% が天敵を利用した I P M 菅生防除に取り組む
- 平成 21 年 生物農薬（バチルス菌）を利用した自動ダクト投入を推進普及する。
- 平成 24 年 天敵昆虫や粘着板等を利用した I P M 総合防除に組合全員が実施。



◇導入した I P M技術

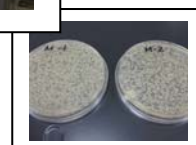
(予防)

- ・ 収穫期いちごの主要病害のうどんこ病・灰色カビ病の予防対策として微生物農薬（バチルスズブチルス）の自動ダクト内投入を推進し高設栽培を中心に 10 名の生産者が導入しました。
- ・ 組合員へ化学薬剤のローテーション散布を促し、防除暦を作成し予防を重点に初期防除に努めました。



(判断)

- ・ 微生物農薬（バチルスズブチルス）の自動ダクト内投入では圃場にシャーレーを設置し、菌を増殖しダクト内投入の効果を検証しました。
- ・ 組合員全員がルーペを購入し、ハダニやスリップス類等害虫の寄生密度を確認しました。



(防除)

- ・ アザミウマ類に対してはククメリスカブリダニ、ハダニ類に対してはミヤコカブリダニやチリカブリダニなどの天敵農薬を散布して防除を行っています。
- ・ アブラムシに対してはコレマンアブラバチを放飼しますが、園芸プランターに麦を育てムギクビレアブラムシを増殖し天敵の増殖を促しました。
- ・ 農薬を使用する場合は天敵に影響の少ない農薬を選択して散布しています。



◇消費者の皆様へ

J A三島函南イチゴ組合では、県内でもいち早く天敵昆虫や微生物農薬を利用し、天敵を導入後は化学農薬の散布回数も減り、結果的に安全で安心なイチゴが生産されています。

イチゴを購入の際は、是非、三島函南産の『紅ほっぺ』をお願いします。

